

マテリアリティ評価について

当社グループは、持続的な企業価値の向上と社会的価値の向上を図るため、重要課題（マテリアリティ）を特定しています。

具体的には、当社のパーパス、中期経営計画や、SDGs、国際的な開示基準等を踏まえた課題を網羅的に抽出した上で、従業員、顧客企業、株主・投資家、地域社会等の主要ステークホルダーの視点を反映し、以下の2軸で評価を実施しました。

- ・事業におけるインパクト（ビジネスマテリアリティ）
- ・社会におけるインパクト（インパクトマテリアリティ）

当社の事業におけるインパクト（ビジネスマテリアリティ）については、収益やコストへの影響額、発生確率および影響の時間軸（短期・中期・長期）を踏まえて評価を行い、社会におけるインパクト（インパクトマテリアリティ）については、影響の重要度、影響範囲、回復可能性および発生可能性の観点から評価を行いました。毎年、レビューを実施し、必要に応じて更新を実施しています。

これらの評価結果を総合的に勘案し、経営戦略との整合性を確認した上で、当社グループのマテリアリティとして以下の5項目を特定しています。

1. 人材と働き方の多様性
2. 人材のパフォーマンス向上（質と生産性）
3. ビジネスモデルの革新（収益モデルの進化）
4. リスクマネジメントの高度化
5. 地域社会への参画（社会課題の解決）

当社グループは、事業への影響に関する評価のモニタリングに加えて、社会における影響を適切に把握・管理するため、影響の重要度および影響範囲等を踏まえ、以下の主要指標を設定し、モニタリングを行っています。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 人材と働き方の多様性 | |
| ・女性管理職比率 | ・男性育児休業取得率 |
| ・従業員満足度 | ・障がい者雇用率 |
| ・年次有給休暇取得率 | ・残業時間 |
| 2. 人材パフォーマンスの向上 | |
| ・従業員一人当たり売上高 | ・従業員一人当たり研修時間 |
| ・売上高対教育投資比率 | ・離職率、定着率 |
| 3. ビジネスモデルの革新 | |
| ・プラットフォームビジネス売上高比率 | ・顧客満足度 |
| ・AI活用/自動化業務導入件数 | |
| 4. リスクマネジメントの高度化 | |
| ・中期経営計画の進捗 | ・サイバーセキュリティ強化計画の進捗 |
| ・個人情報に関するインシデント件数 | ・情報セキュリティに関するインシデント件数 |
| 5. 地域社会への参画 | |
| ・地域拠点における雇用人数 | ・温室効果ガス排出量削減率 |
| ・社会貢献活動実施件数 | ・自然保護活動実施回数 |